# 透析医のひとりごと

## 「副会長の退任にあたって」

吉田豊彦

正直ほっとした思いがしました．そして結構長かったなあと感じました．思い返してみれば，（社）日本透析医会設立以前より関与してきました．法人設立の動きは，故武見太郎日本医師会会長時代に，透析の医療保険がマイナス 35% 前後引き下げられた時から始まりました．当時，透析の全国的組織としては学会がありましたが，まだ文部省に法人としての認可を得ていませんでした．また，学会は保険改定に対しては関心がなく，無力でもありました．そのため，現常任理事，太田圭洋先生のご尊父である太田和広先生が全国都道府県透析医会連合会を作られ，関係各方面に働きかけました．

しかし，世の中は任意団体など相手にしてくれないということを痛いほど知らされました．そこで，正式に厚生省から認可を得た団体になることを決意いたしましたが，その頃の透析医療に対する世間の評価は厳しく，大変風当たりが強く惨めな思いをしたことを覚えています．法人化への具体的な働きに，特に全力投球をされたのは，元専務理事の鈴木満先生でした．もともと運動費は，当時の連合会にもどこにもありませんでしたので，先生が身銭を切って活動されていました．当初は，太田和広先生，ついで平沢由平先生，太田裕祥先生，そして初代会長を引き受けられた稲生綱正先生などなどにご指導を受けながら，鈴木満先生が私を引きつれて，厚労省保険局疾病対策課に日参（特に夜）した日々の苦労が今は懐かしく思い出されます．

法人の定款をつめるために，夜 10 時頃まで何もない疾病対策課の狭い机と椅子で長時間にわたり相談して頂いたことなどが昨日のことのように思われ，法人化は難産だったなあと感慨ひとしおです．

法人化後，今年で 22 年になります．その間たくさんの方々にお世話になり，勉強させて頂き，私の人生を充実したものにして頂きました．ここで，心からお礼の言葉を述べさせて頂きます．“ありがとうございました”

みはま病院